

ZERO

回数は
好き



検査庵
だより
09

住職挨拶



検校庵 住職 鈴木 恵道

今年もお盆を迎える時節となりましたが皆さま如何お過ごしでしょうか。

検校庵で行われる法要の紹介ですが、今回は「涅槃会」をご紹介しますので、ご一読ください。

なお、先の話で恐縮ですが、数年後を目安として、検校庵ご開山様である曹巖愚溪大和尚のお寺「秋田県にかほ市蛇満寺」への参拝旅行を計画しており、檀信徒皆様へ広く参加を募る予定であることをお伝えさせていただきます。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

○涅槃会

二月十五日はお釈迦様がお亡くなりになった日で「涅槃会（ねはんえ）」といえます。

検校庵では毎年遅れの三月十五日に法要を行っております。また、たくさんの「やしようま」を準備してお配りさせていただきます。

○自灯明法灯明

お釈迦さまはお悟りを開いた後四十五年間の長きに亘り、多くの人々に教えを説きながら旅を続けていらっしやいました。

クシナガラという地で自らの死が近いことを察したお釈迦様は弟子たちを集めこのように説かれました。

『弟子たちよ、おまえたちは、おのおの、自らを灯火とし、自らをより処とせよ、他を頼りとしてはならない。この法を灯火とし、より処とせよ、他の教えをより処としてはならない。』

つまり、お釈迦さま亡きあとは自分自身をより処とし、真理である法を大切にしながら歩みを進めなさいということなのです。

私達人間ひとりひとは不完全な存在かもしれない。



欲に溺れそうになることもあるでしょう、悩み苦しむこともあるでしょう、それでも私達が歩む人生は他人の人生ではなく自分自身の人生です。

○涅槃とは

涅槃とはサンスクリット語でニルヴァーナと呼ばれ、煩惱の炎を消し悟りの境地に辿り着くことを意味します。

お釈迦さまは「全てのものは移りゆく存在である。怠ることなく精進を続けなさい」というお言葉を残し涅槃の世界にお入りになったのです。

令和六年能登半島地震について 藤田清隆

令和六年一月一日午後四時過ぎ、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、石川県志賀町で最大震度七の揺れが観測されました。これにより、尊い人命が失われ、多くの方が負傷されました。

お亡くなりになられた方がたのご冥福をお祈り申しあげ、被災された皆さまに、心よりお見舞い申しあげます。

石川県には一三四カ寺の曹洞宗寺院がありますが、そのうち一一〇カ寺で本堂や庫裏、



山門などの建物被害があり、復旧のめどが立たない状況は今でも続いております。

曹洞宗の両大本山といえば、福井県永平寺、神奈川県横浜市總持寺ですが、總持寺はもともと能登にありました。

大本山總持寺がもと居た場所には、總持寺祖院という名の修行道場がございます。しかし、重要文化財でもある伽藍の倒壊により修行を行うことが困難な状況が続いております。

先日、この總持寺祖院の向かいにある輪島市門前町避難所での炊き出し支援として、二月二十一日の夕食から二十二日の昼食まで三食を提供するため、曹洞宗長野県第二宗務所青年会の一員として参加させて頂きました。

門前町では当時、電気とガスは復旧しているものの、上下水道の復旧が出来ておらず、大変不便な環境で大勢の避難者が生活をしておりました。

蛇口をひねっても水が出てこないことにより、お風呂にも入れず、洗い物の水にも気を使い、避難所屋外に設置された仮設トイレに都度向かう生活を続けられる人々に対して心苦しくも帰路につきました。

たった一度の支援では、必要とされる支援のごく一部にしか過ぎないことは分かっておりますが、僅かな支え合いの積み重ねにより救われる心があると信じ、精一杯心を込めて調理してきましたことをご報告いたします。

なお、その後もがれき撤去のボランティア活動などが継続的に行われ、全国各地から僧侶がかわるがわる門前町を訪れております。
※表紙の写真は炊き出しの様子です

「あとから来る者のために」 坂村真民

あとから来る者のために

田畑を耕し 種を用意しておくのだ

山を 川を 海を きれいにしておくのだ

ああ あとから来る者のために

苦勞をし 我慢をし

みなそれぞれの力を傾けるのだ

あとからあとから続いてくる

あの可愛い者たちのために

みなそれぞれ自分のできる

なにかをしてゆくのだ

検校庵では、皆様と共に、より良い未来を築いていくために精進してまいります。

日本語は美しい

藤田 清隆

女の子はよく話す、とは聞いておりましたが、保育園に入園した娘は朝から晩までよく話します。

「ごっこ遊びをしていたかと思えば、両親の会話を片耳で聞いており、頼まれてもないのに「はい、どうぞ」と菓を手渡してくれるのですから驚きです。

このような時、夫婦の間では「あれ」「それ」など、阿吽の呼吸ともいえる会話がされているのですが、文脈を理解して世話焼きを行う娘に対して「日本人らしいな」と関心を致しました。

日本語の特徴として「主語や目的語を完全に言わずとも、通じる場合には積極的に省略する」という点が挙げられます。

主語がなくとも「受け取り手の察する能力」で以って無意識に会話を進めているのが日本人です。例えば、「(私は)昨日東京に行っ

てきたのだけれど」「(食事が)美味しい店があったんだ」「今度(僕と君とで東京のお店に)行かない？」と、このように省略されています。

これに対して、英語は主語を省略することがないため、例えば「あなたとご飯を食べに行きたいです」と云えば通じる会話も、「ワタシはアナタとご飯を食べに行くのが良いと思ってます」となるため、可笑しい日本語に聞こえてしまうわけです。

「イギリスの人気番組「ブリテンズ・ゴットタレント」で、お笑い芸人の「とにかく明るい安村」さんがネタを披露した際、大ウケしている姿をニュースで観る機会がありました。

この番組で安村さんは、様々なポーズをとった瞬間に「安心してください、履いていますよ」とい

うお馴染みのフレーズを、「Don't worry, I'm wearing!」と直訳で伝えました。

正しい文法でいうと「I'm wearing pants」となりますが、彼はパンツを指さしてポーズをすることで「pants」というフレーズを省略したと認識されます。

結果的に、文法を捕捉しなくてはまらない観客に「pants」と掛け声を掛けさせるといふ奇跡が起こります。

つまり、文法間違いが転じて大盛り上がりした、というのが真相のようです。

日本語は、ハイコンテキスト(暗示的・過程志向)と呼ばれ、言語の習得難度が高いと言われます。

例えばハイコンテキストの場合、「寒いな」(コートを貸して欲しいな)と発言し、会話の余白で察して貰うのが慣例です。

これに対してローコンテキスト(明示的・結果志向)代表はアメリカ人やオランダ人の話す英語で、「寒いな、コートを貸してください、寒いかな?」と発言し、日本人が「そこは察してね」ということまでストレートに言葉で伝えるため、ある意味では誤解を招く必要がないと云えます。

反対に、ストレートな表現をしなくとも察することを要求されてしまうが故に生まれた「空気を読めない」などの言葉は、ハイコンテキスト(日本語)の弊害とさえ感じます。

それでも、ハイコンテキスト代表とも云える俳句は魅力的です。「散る桜 残る桜も 散る桜」

良寛禅師辞世の句とされる詩言葉の余白に自らの命を重ねて味わう、やはり日本語は美しい。